MSKCCレポート

島田能史

二〇一六年四月から約三か月間、ニューヨークにあるMemorial Sloan Kettering Cancer Center（MSKCC）、Department of Surgery, Colorectal Serviceで、臨床見学および臨床研究を行う機会を得ましたのでご報告いたします。

【MSKCC】基礎医学と臨床医学を両輪とした巨大な組織を構築しています。そのメイン病院であるMemorial Hospitalは世界で最も歴史のあるがん専門病院の一つとされています。

【Surgical Oncology Conference】Memorial Hospitalでは、優秀なフェローたちが臓器横断的に学んでいました。彼らを対象としたカンファが毎日行われており、その内容は、講演・症例報告・研究発表・術前検討など多岐にわたっていました。フェローが発表を行い、スタッフがそれに対してコメントする形式が多く、エビデンスに基づいた議論が行われていました。特に、フェロー同士のディベートは内容・プレゼンともに素晴らしく、印象に残りました。これらのカンファを通して、普段から意識して問題に取り組むこと、それを自分の言葉で説明するということが重要であると感じました。

【手術】大腸癌では、ロボット手術が多く行われていました。スタッフ、フェロー、さらにPhysician Assistant（PA）が一チームとなり、一日に三～四件の手術を行っていました。基本的にスタッフが術者で、手術の一部をフェローが行うといった感じでした。手術の内容は、リンパ節郭清や吻合なども含めて日本で行われているものとあまり変わりません。出血

中央がWeiser先生。小西先生、外科fellowたちとステーキをごちそうになりました。

はほとんどなく、きれいでスピーディーな手術でした。外科医は土曜日も普通に手術をしていますし、とても勤勉でした。ＭＳＫＣＣでは健康に気をつかう上層階級の患者が多いためか、極度の肥満症例は思ったよりも多くありませんでした。しかし、体形的に手術が困難な症例が多いことは間違いなく、海外の臨床データをみるときにはそういう目でみなくてはいけないとあらためて感じました。

【標本整理】分業が進んでおり、外科医が摘出標本に触れることはありません。摘出標本は手術室からすぐに病理部へ送られ、ＰＡが標本整理を行っていました。進行癌に対しては、正確に補助化学療法の適応を決めるために、しっかりとした標本整理が行われていました。ただし、早期癌への興味が低いためか、ＥＭＲ検体の取り扱いが悪く、研究材料としては使用できませんでした。

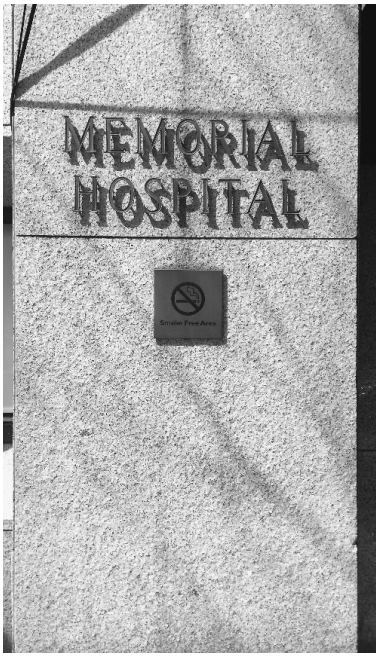
【研究】大腸癌発育先進部の病理学的な研究（簇出など）を行ってきました。共同研究者のがん研の小西毅先生がメインで研究計画を立案し、指導医のWeiser先生と定期的にミーティングを行いながら研究を行いました。私の分担は、顕微鏡をみて病理所見をとることでしたが、当初はＩＲＢなどの関係で顕微鏡が使用できず、主にカルテ調査を行いました。カルテはとてもわかりづらく、必要な臨床情報を得るのに苦労しました。しかし、化学療法の内容やフォローアップなど、アメリカの医療を垣間見ることができた点はとても有益でした。その後、ようやく顕微鏡の使用許可がでたのですが、しばらくは日中の使用許可が下りないため夜間に作業を行いました。Weiser先生からは、「君はまだ日本時間に慣れているはずだから、夜間でも大丈夫だし、二十四時間仕事ができてラッキーだよ！」などと励まされ（？）、最終的には八百五十例の病理スライドを評価することができました。大腸癌発育先進部の病理所見は、これまで日本で行われた研究が多く、世界的に広く受け入れられているとは言えません。今回の研究から、これらの病理所見の有用性を示すような成果が得られたらうれしく思います。

【生活】ニューヨークは活気にあふれ、とても楽しい街でした。食事・娯楽・買い物など、人それぞれに楽しむことができると思います。私は、急遽ヤンキースファンとなり、観戦に行きました。移動は地下鉄が便利で、毎日利用していました。大きな駅や観光施設にはだいたい警官がいますし、治安が悪いと感じたことはありません。ただし、全体に物価が高く、特にアパートのレンタルやホテルの料金は驚くほどに高いです。私のアパートはStudioという単身向けの狭い物件でしたが、月の家賃は二十万円を超えていました。

【さいごに】今回の留学は、幸運が重なり実現しました。短い期間ではありましたが、実際に現地に行って体験したこと、人との出会いは一生の財産になると思いました。今後留学をされる若手の先生方には、ある程度の実績と語学力を身につけておくことをお勧めしたいと思います。

医局からは多大なサポートをしていただきました。このような貴重な機会を与えていただいた若井教授、亀山准教授、医局員の皆さまに心から感謝を申し上げます。

（平成十三年入会）



Memorial Hospital